

# 支援事業終了報告

## 江別美術協会 創立50周年記念展を終えて

江別美術協会

吉田 ユキ子

50周年記念展は、令和3年10月28日(木)～11月3日(水)セラミックアートセンターに於いて、新型コロナウイルス緊急事態宣言明けに盛大に開催されました。

例年の奨励賞2名の作品賞と併せ記念展にふさわしい50周年記念5賞も設けて、実力と魅力を感じる会員展にしたいとの企画です。

記念展は、コロナ禍の外出の不自由を受け、作品に取り組む熱意と実力を感じる活力ある力が並びました。

創立当初から会の発展に尽力して頂いた4氏の遺作も併せて展示させて頂き、開催期間が短



いにもかかわらず多くの来場がありました。

又、井内会長と3人の40年以上在籍永年功労会員の『美協50年を語る』では、創立時の会員の苦労話等今となっては懐かしい楽しいお話でした。

ギヤラリートークは3グループに分け、1グループ1名の講師による作品の講評と作者の取り組みなど意見交換と交流の有意義な企画でした。

現在作製中の『江別美術協会50周年記念誌』は、図録、会員のメッセージ、自画像、会の記録も掲載したもので3月中旬完成・配付予定です。

## 大学の「学び」を市民に 札幌学院大学 コミュニケーション・カレッジ

札幌学院大学 社会連携課  
甲斐 陽輔

道民、市民の皆さまに公開講座を開講して22年になりました。江別市にキャンパスを置く大学として江別市民の皆さまにご支援いただいていることに感謝申し上げます。

さて、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンライン方式での開講となりました。コロナ禍の下で関心が高まった人間の内面への関心、家族や地域の再生といった課題に出来る講座を開講することが出来ました。具体的には、「近代日本における『心』の誕生」、「パーソナリ

ティ(人格)障害」、「ひきこもり」

その現状と今後の課題」、「成年後見制度―活用準備から実際まで」、「地域でケアする認知症―他人事から自分事へ」といった講座です。また、「セカンドライフの生き方を考える―シニアが輝くNPO活動」では行政でも会社でもないNPOの活動から地域の再生と公益について考えました。

「震災復興と地域づくり―子どもに焦点を当てた『未来づくり』の試み」では激震災害を被った安平町で地域再生に取り組む若き実践家から話を聞くことが出来ました。被災時の困難な状況からまちをどう再生するのか、町民総出で0から夢を語り考えました。そこから生まれた「安平町の未来は教育がつくる」という考えに基づく様々な挑戦は地域再生を考える上での大きなヒントとなりました。

コロナ禍で生まれた新たな「気づき」にも応える大学ならではの講座を引き続き開講して参りたいと考えています。



## 日本3B体操協会 創立50周年全国大会 北海道大会に参加して

3B体操江別サークル  
代表 佐藤 ひとみ

2021年12月18日に北ガスアリーナ札幌で行われた大会に交流・演技発表で参加しました。この大会は元々9月24日の予定だったものがコロナの影響で延期になった開催となりました。想定はしていたものの延期や中止が見通しがわからない中で、今回の支援事業への応募も

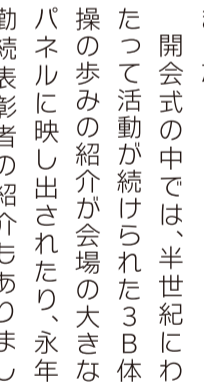
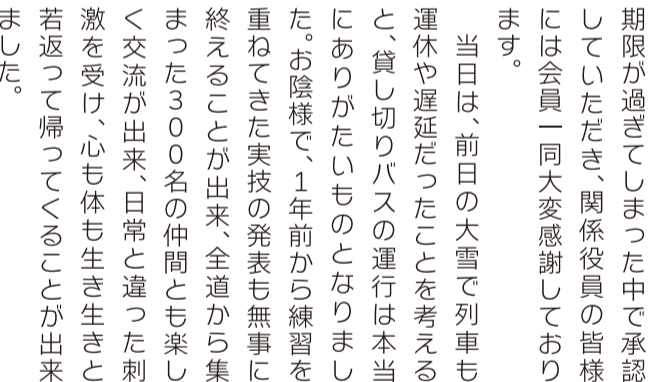
期限が過ぎてしまった中で承認していただき、関係役員の皆様には会員一同大変感謝しております。

当日は、前日の大雪で列車も遅延や遅延だったことを考えると、貸し切りバスの運行は本当にありがたいものとなりました。お陰様で、1年前から練習を重ねてきた演技の発表も無事に終わることが出来、全道から集まった300名の仲間とも楽しく交流が出来、日常と違った刺激を受け、心も体も生き生きと若返って帰ってくる事が出来ました。

開会式の中では、半世紀にわたって活動が続けられた3B体操の歩みの紹介が会場の大きなパネルに映し出されたり、永年勤続表彰者の紹介もありまし

た。江別からは、2名の表彰者の紹介がありました。

コロナの為、家族や自分の体の事を考え参加を断念した人もいました。が、週1回のサークルの仲間と次回は全員で参加したいです。



## 令和3年度生涯学習リレー講座 「江別のテイープな 歴史的建造物めぐり」 講師/NPO法人歴史的地域資産研究機構

技術専門員 小林 孝二氏

講師の小林孝二氏は、北海道開拓記念館の研究職員、学芸員として、主に道内の古建築・歴史的建造物に関する調査研究に携わって来られ、江別市においても、長く文化財保護委員会委員(現在は委員長)を務められるとともに、野幌屯田兵第二中隊本部の復元保存や市内に所在する古建築の調査などに際して、専門的見地からご指導をいただいていた方です。

講演では、サッポロ珈琲館の力フエとして活用に向けて準備が進んでいる北海道林木育種場旧庁舎(昭和2年建築・国登録有形文化財)をはじめ、酪農学園精農寮(昭和20年建築)、野幌屯田兵第二中隊本部(明治17年建築・北海道指定有形文化財)、屯田兵第三大隊本部火薬庫(明治19年建築・江

別市指定文化財) などについて詳しく説明され、江別市内の歴史的建造物の特徴として、石や煉瓦、コンクリート、木材など異なる材料を併用して造られたものが多いことを挙げられました。その上で、現在、江別市が道内の他の自治体と比べても多い、10カ所あまりの歴史的建造物(指定・登録文化財以外のものも含む)を所有していることは評価しつつも、管理や活用上の問題点についても触れられ、今後いかにこれらの建造物を残していけるか、今が正念場であると述べられました。

最後に、江別にはこんなに面白い価値のある歴史的建造物があるということを理解してもらいたい、また、市にはそうした情報を市民に積極的に流してもらいたいと述べられるなど、今後、私たちが歴史的建造物とどう向き合っていくべきかを考える上で、大変示唆に富んだお話でした。

文責:総務副委員長 園部 真幸

「江別のテイープな歴史的建造物めぐり」

「江別のテイープな歴史的建造物めぐり」

「江別のテイープな歴史的建造物めぐり」



当日の映像はこちらのQRコードからご覧になれます。



# 今春、北海道林木育種場旧庁舎に カフェオープン!

野幌丘陵の高台に建つ北海道林木育種場旧庁舎は、昭和2年に内務省北海道庁所管野幌林業試験場として建築され、当時流行した洋風の外観を持つ建物です。平成13年に国の登録有形文化財に登録されています。

平成14年に市が国から購入して休憩所などに活用してきましたが、令和3年から株式会社珈房サツポロ珈琲館が使用し、今春本社が移転、さらに直営カフェがオープンします。北海道林木育種場旧庁舎の見どころとカフェの様子(予定)をご紹介します。



【北海道林木育種場旧庁舎の見どころ】

外観は、柱・梁・筋交いなどを外部に露出させた、北ヨーロッパに多く見られる「ハーフトインバー様式」を基調としています。

建物内では、「研ぎ出し工法の階段手すりなど、左官職人による優れた意匠を見ることが出来ます。

前庭には、サクラやイチイ、カエデ、ツツジなど様々な樹木が植えられており、四季折々の景色を楽しむことができます。



店内イメージ図((株)珈房サツポロ珈琲館提供)

【カフェ】  
自然に囲まれた静かな環境の中で、「コーヒーを味わいながら、おひつりて学習したり、仲間とお話したりと、それぞれの目的に合わせてご利用ください。  
※オープン日は未定です。詳細が決まり次第市HPなどでお知らせします。

# 手話動画作成話

メディネット江別 中村 康治

手話動画作成のきっかけは、ららフェスティバルでの、手話歌との出会いでした。歌に合わせて手話をしていく。こんなことができるのだと驚きました。

多くの方に手話を知ってもらうには「どうすればいいのかわからないのか」

メディネット江別のできることはなんだろう?と、そうだ、手話動画の作成だ。えべつ手話の会のご協力をいただき、手話動画作成を開始。

ビデオを作成するには、まずどのような手話ビデオにするか。ビデオの長さ(時間)は短いもの(一篇が二分以内)で簡潔に。次に、テーマの決定。テーマは①日常生活に関するもの(例えば挨拶や身の回りの品物など)②江別の特産品や地名③災害時に関するもの④病院や市役所で使う言葉。など、をピックアップしました。それら



をもとに、シナリオ作成。撮影会場準備。機材の設置。当初のビデオは、手話の演じ手のバックは単色でした。でも江別に関連した映像や写真を配して、江別らしさを出したいことから、撮影時に、ブルーバック手法で背景を緑又は青色一色で撮影しました。でも問題が。編集作業時にバック映像を入れるという、経験のない技術が必要でした。勉強会を開き、編集技術を向上させ、完成させることができました。

現在は、二十篇完成です。手話動画は、「情報誌ららら」のQRコードから見ることが出来ます。これも、紙面からホームページへ展開する、新しい手法です。ぜひ手話ビデオをご覧ください。

今後も手話動画を「えべつ手話の会」の方と一緒に制作してまいります。乞うご期待です。

メディネット江別 ホームページ



手話をまなぼう

## 「入院」

「入院」をスマートフォン・タブレット等のQRコードリーダーで読み取っていたら、手話の動画がご覧いただけます。今回は「病院診察科の役立っ手話」です。

このまま手前に出す



## まなぼう Vol.14

NPO法人江別市文化協会 折原 博美

江別市文化協会の最大の行事は、秋の市民文化祭です。昨年、一昨年とコロナ禍の中で感染防止対策を講じながらの開催となりました。参加団体、来場者ともに若干減りましたが、無事成功裡に終わりました。

## 生涯学習推進協議会のホームページ

生涯学習推進協議会のホームページでは、過去の各種事業の様子や、これらのイベントのスケジュールが見られます。QRコードからご覧ください。



## 《編集後記》

「コロナ禍。まさか人と会えること、大声で笑うこと、喉ごし、食事を楽しむこと、手をつなぐことも。こんな日がくるとは、人生の「まさか」の坂を実感しています。良い事があったとしたら、ステイホームで、ゆっくり本が読めたこと、オンラインに参加したこと、友達との情報交換(長電話?)...学びは続けますね。

広報委員長 西懸 昭子